

# 4



## 経営状況

4.1. 水道事業を取り巻く環境変化 .....	20
4.2. 現在の経営状況と傾向 .....	20
4.3. 計画期間中の収支計画 .....	20
4.4. 料金改定 .....	23

# 4 経営状況



少子高齢化や人口の減少で、水道料金の収入が減少しているから、水道事業経営はどうなっているんだろう？

## 4.1. 水道事業を取り巻く環境変化

日本の水道事業を取り巻く環境は、近年、大きく変化しています。

経営面で最も大きな影響を及ぼす変化は人口の減少です。人口減少は料金収入の減少に直結するばかりでなく、建設投資の動向をも左右し、多方面で水道事業の経営に大きな影響を及ぼします。

また、国民に節水型の生活様式が広く普及したことや企業や官公署の節水型設備への切り換えが進んでいることなども料金収入の減少を生む要因となっています。

一方、支出では、高度成長期から昭和 50 年前後に建設した多くの施設・設備や同年代に敷設した多くの管路が取替え時期を迎えており、今後、この施設・設備や管路の更新費用の捻出が大きな課題となります。

更に、近年、地震災害が頻発し、耐震性の高い施設・設備や管路の早急な整備が求められているほか、国民の飲食物の安全性やおいしさに対する関心が、大きく高まってきていることから、安全であるばかりではなく、よりおいしい水の安定的な供給を求める声が高まっています。

## 4.2. 現在の経営状況と傾向

新発田市水道事業の給水区域内人口は、町村と合併した平成 17 年度から減少し続けており、これに比例して給水量も減少しております。平成 29 年度には大槻地区の上水道への組入れ、簡易水道地区 5 地区との経営統合により一時的に 2,000 人余り増加し 92,683 人となりましたが、令和 3 年度には 89,741 人と 9 万人を割り込んでおり、将来的にも減少を続けることが見込まれます。

収益的収支においては、令和元年度に約 9 年ぶりとなる水道料金の改定を行ったこともあり、令和 5 年度末には約 1 億 3 千万円の黒字を確保できる見込みです。

しかしながら、依然として続く給水量の減少に加え、近年の電気等のエネルギー料金を含む物価の高騰などから、今後も財政的に厳しい状況が続くことが予測されます。

## 4.3. 計画期間中の収支計画

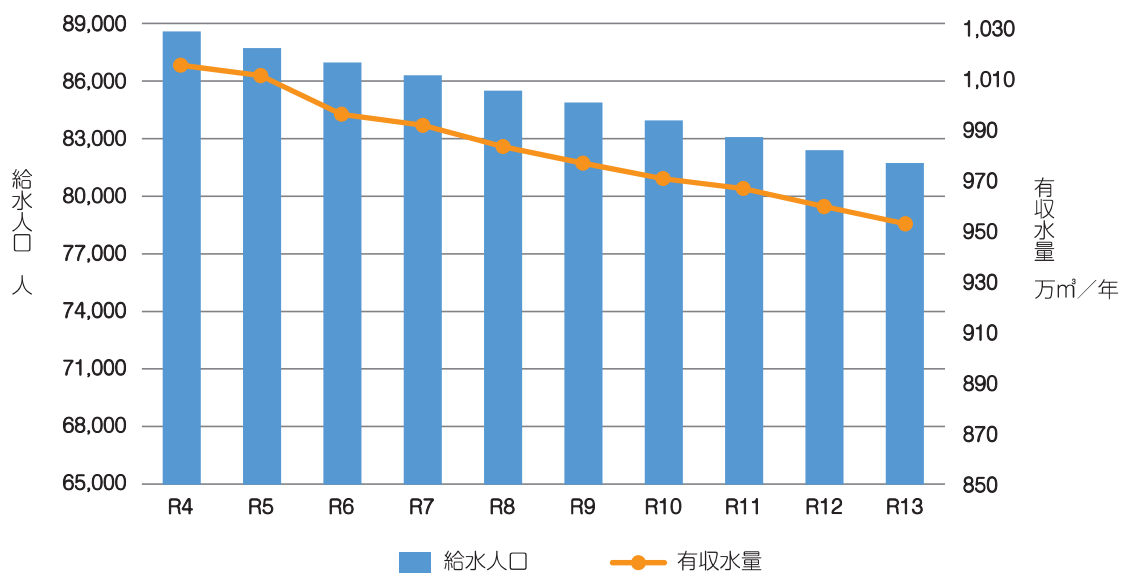
今回の水道ビジョンでは、計画期間である令和 6 年度から令和 13 年度までの水需要の予測及び施設更新計画を見直し、これらに基づいて収益的収支及び資本的収支の収入額と支出額を推計しました。

水需要の予測

水需要の予測は、手順として、「生活用」、「業務・営業用」、「工場用」の各用途の過去実績の傾向と整合を図りながら、一日当たりの平均使用水量を基礎に時系列傾向分析の手法を用いて算定しました。

この算定結果では、令和 13 年度には令和 4 年度比較で、6.0%、約 60 万<sup>m</sup>の減少と予測しています。

新発田市の水需要の 7 割余りが一般家庭での使用であることを考えると、人口の減少が水需要に与える影響は大きく、これに節水意識の浸透による一人当たりの水使用量の低迷なども加わって、今後も水需要は、緩やかに減少していくと考えられます。



収益的収支

① 料金収入と支出

収益的収入では、収入の約 8 割を占めている水道料金収入が有収水量の減少とともに、減少していく見込みです。

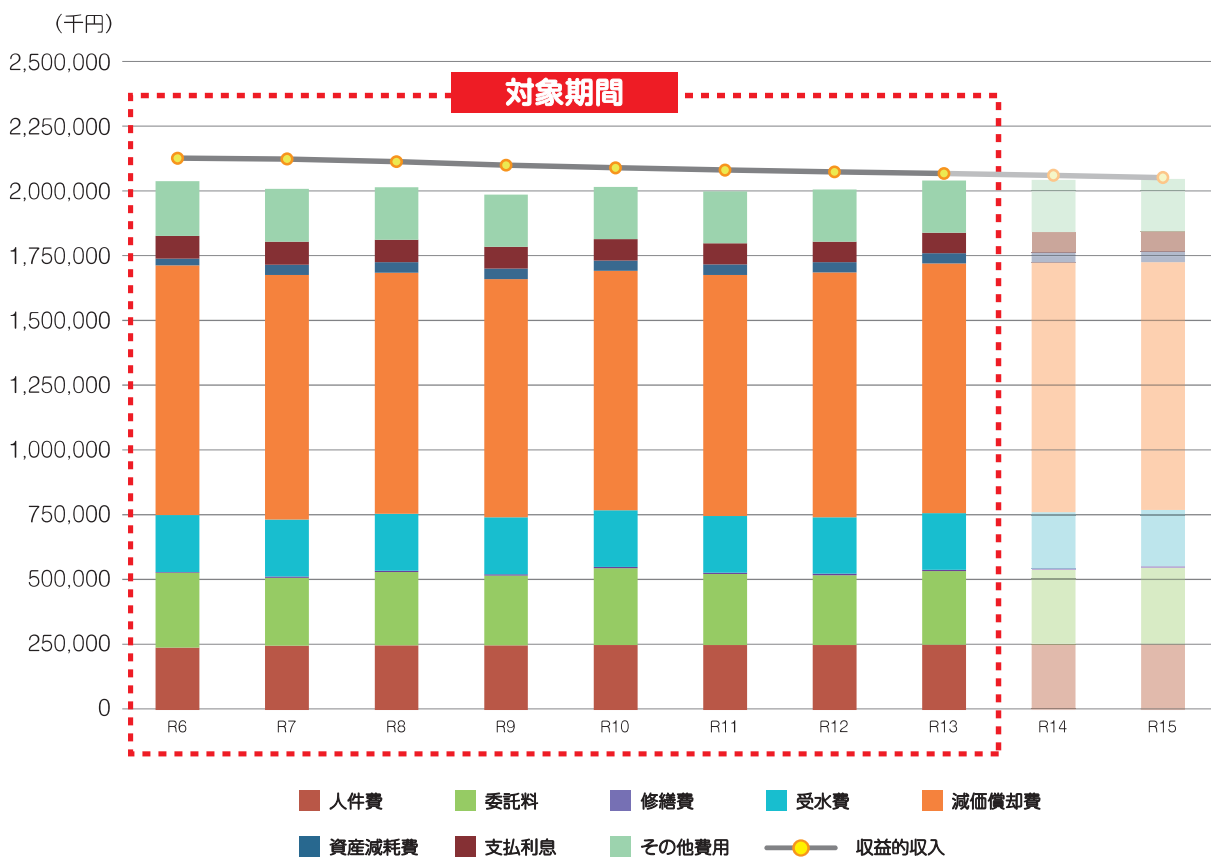
支出は、業務の一部を引き続き民間に委託するなど人件費の節減に取り組むほか、企業債の借入額を抑制することで支払利息額を減少させるなど、経費の削減を進める計画です。

支出の約半分を占める減価償却費は、短期間による大幅な縮減は困難であることから、施設更新の際にダウンサイジングやスペックダウンを検討し、施設の長寿命化を図り、減価償却費の縮減に努めていきます。

収入見込額から支出見込額を差し引いた損益は、黒字を計上できる見通しですが、今後も水需要の減少などに伴う水道料金収入の減少を踏まえた事業運営を継続していきます。

経営状況

### 収益的収入及び支出



#### 資本的収支

資本的収支の支出の配水管工事費では、今後も計画的に老朽化した配水管等の更新に努めます。また、近年の多発する災害を受けて、防災を主眼とした耐震化工事及び基幹管路である送水管、導水管の入替工事も進めていきます。

配水施設費では、令和4年度に紫雲寺配水場の配水地の耐震化工事が完了したことから、今後は老朽化した設備等の更新を行っていきます。

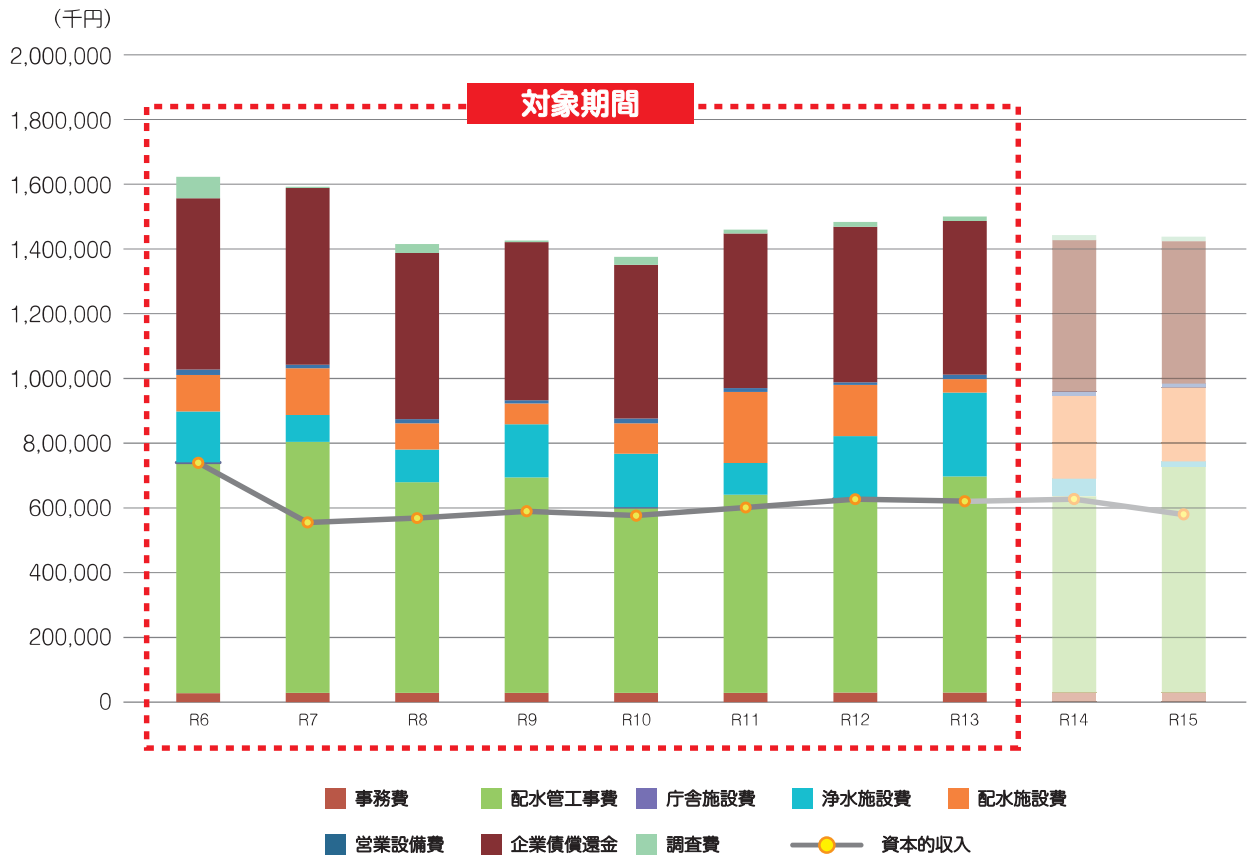
なお、江口浄水場整備事業は、基本設計の段階で、資材設備費・人件費・諸経費の上昇による事業費の増大が判明しました。このため、災害時の原水確保策として、内竹配水場周辺の深井戸の更新を進めることとし、江口浄水場の耐震化事業を延期しました。6年度以降の浄水施設費では、江口浄水場の長寿命化事業を実施していきます。

企業債償還金は、今後も高い水準で推移していく見通しですが、できるだけ有利な補助事業を活用し企業債残高の縮減に努めていきます。

これらの支出を賄う収入では、企業債が大きな割合を占め、次に国庫支出金、工事負担金、市からの出資金を見込んでいます。

資本的収支の不足分は、損益勘定留保資金、減債積立金などの補てん財源から充当することになります。

資本的収入及び支出



4.4. 料金改定

令和元年度6月に水道施設の耐震化、財政基盤の強化などを目的に料金算定期間を令和元年度から令和4年度までとし、平均料金改定率10.4%、また、一部逓減制を取り入れた料金体系案を提案し、新発田市水道事業審議会の答申、市議会の議決を経て、料金改定を行いました。

今後の収益的収支予測では、水道料金収入は減少傾向にありますが、令和5年度から8年度までの算定期間においては現状の料金体系で黒字を計上し続けることができると見込んでいます。

今後も安全でおいしい水道水の安定供給のために、健全経営に努め、適正な料金水準の検討を進めていきます。

